

し	過		そ	ん	「	番	「	の	空	室	言		嚇	で	腕	仏				不
て	して	時	う	な	さ	才	一	椅	と	の	わ		だ	話	を	蘭				思
何	いて	計	言	に	あ	は	体	子	向	よ	れ		っ	し	上	は				議
度	る	は	い	心	な	女	何	の	き	う	た		た	始	げ	テ				な
も	気	な	な	配	なん	将	を	上	合	な	仏		っ	め	ー					内
漠	が	い	が	し	だ	に	話	か	い	空	蘭		た	て	ブル					心
空	し	が	ら	て	ら	尋	して	ら	、	間	は		。	か	の					
に	て	感	女	く	う	ね	い	眺	番	に	、			ら	上					
対	い	覚	将	ても	ね	。	る	め	才	は	カ			、	に					
し	た	的	は	大	。	ま	ん	て	た	は	ウ			こ	立					
て	。	に	お	丈	ま	あ	で	い	は	そ	ン			れ	ち					
抗	そ	既	茶	夫	、	楽	し	た	れ	を	タ			も	威					
議	の	に	を	だ	、	し	そ	し	を	カ	ー			う	嚇					
や	間	二	す	だ	、	そ	う	よ	カ	ウ				何	す					
詰	仏	十	す	よ	、	う	だ	う	ウ	ン				度	る					
め	蘭	分	す	。	、	し	し	か	ン	タ				目	一					
寄	は	ほ	。			そ	。		ー					か	対					
る	あ	ど				う								の	一					
よ	あ	が				だ								威						
う	あ	経				し								嚇						

て	な	視	才	漠	ま	て	わ		時	め	リ	声	い	ど	死		に	三	方
ん	さ	線	は	空	し	考	か	「	が	続	と	に	う	の	後	「	気	人	へ
の	い	に	は	の	た	え	ら	本	止	け	も	抑	問	時	魂	仏	づ	は	話
よ	よ	気	思	口	。	始	な	人	ま	て	動	揚	い	間	が	蘭	き	、	し
!	あ	づ	わ	か	。	め	く	で	っ	い	か	が	に	、	入	さ	、	か	け
」	ん	い	ず	ら		、	な	す	て	る	ず	な	始	“	り	ん	そ	け	た
と	た	た	仏	ら		そ	っ	ら	い	み	、	く	ま	何	込	は	れ	に	。
凧	!	仏	蘭	れ		の	て	ど	た	た	目	、	。	故	み	、	そ	そ	。
の	何	蘭	へ	る		の	か	れ	い	だ	は	合	。	自	、	れ	れ	れ	。
肩	で	は	と	仏		時	、	ほ	。	っ	真	掌	。	分	か	短	短	。	。
に	あ	「	視	蘭		間	仏	ど	。	ぐ	っ	し	。	は	驚	い	。	。	。
両	ん	ち	線	の		が	蘭	の	。	に	直	た	。	生	き	。	。	。	。
手	た	よ	を	こ		経	さ	こ	。	ど	ぐ	状	。	き	て	。	。	。	。
を	が	、	突	こ		つ	ん	こ	。	か	に	態	。	い	い	。	。	。	。
突	そ	ち	い	こ		た	は	こ	。	か	を	の	。	る	。	。	。	。	。
い	の	よ	て	こ		ら	死	こ	。	を	見	。	。	。	。	。	。	。	。
て	こ	と	身	こ		に	に	こ	。	つ	つ	。	。	。	。	。	。	。	。
身	と	知	を	こ		来	つ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
を	知	つ	乗	こ		て	い	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
乗	つ	。		。		い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

仏	「	や	あ	何		後	ず	た	「	栗	「	郎	を	頭	読		ら	り
蘭	ふ	ない	そ	を	「	半	よ	し	や	は	こ	ね	人	の	ん		れ	出
が	え	いか	こ	言	ひ	は	！	が	い	肩	ら	！	前	中	だ		て	し
素	っ	か	で	っ	っ	少	も	バ	バ	の	ら	こ	で	を	の		い	、
っ	！	か	あ	て	ひ	し	う	カ	カ	上	な	ん	べ	読	！		る	勢
頓	？	か	ん	る	っ	声	、	だ	女	が	ん	て	ら	だ	？		。	い
狂	」	」	た	ん	ひ	が	バ	っ	将	上	て	べ	け	の	読			で
な			が	だ	っ	ず	た	た	！	ず	口	ら	で	の	ん			落
声			自	い	ひ	り	わ	わ	少	り	を	も	も	ね	だ			ち
を			分	。	っ	震	。	。	し	震	聞	と	死	。	の			そ
出			の	今	ひ	え	何	。	も	え	く	ん	罪	。	よ			う
す			口	漠	っ	て	が	。	あ	抱	ん	だ	決	。	！			に
。			で	空	た	い	百	。	ん	き	だ	な	定	。	頭			な
			言	が	っ	。	間	。	た	抱	ど	の	な	。	の			る
			っ	語	た		一	。	を	え	変	に	。	。	を			の
			て	っ	こ		見		信	。	態	、			支			を
			た	こ	と		に		じ		野				え			を
			こ	と	じ		如		た									栗
			じ	は			か		わ									に
			は															支
																		え

なんの反応も示すことなく、その場を立ち去ろうとした。
「ちよつと待ったー！あんたちよつとこの人とお話ししてみない？」
仏蘭のその言葉に、「聞こえなかった振りをして行くんだ」と番才は心の中で届くはずのない思いを、立ち止まってしまった美しい女性へ投げかけていた。

く
続
く
く